

■□■TVドラマ版39話は原作に忠実！本作のテイストは？■□■

そう聞くと、本作は大いに楽しみ。そして、本作はツイ・ハーク映画版と対比すれば、さらに面白いはずだ。ちなみに、本作『七剣下天山之修羅眼』に続いては、第2作目の『七剣下天山之封骨骨』（19年）と、第3作目の『七剣下天山之七情花』（20年）が矢継ぎ早に公開されているらしい。そして、この3つの『七剣下天山』シリーズは、それぞれ梁羽生の原作を生かしながらも、独自の解釈を前面に押し出して映画化しているそうだから、それも楽しみだ。ちなみに、それはツイ・ハーク映画版と同じだが、本作のチラシには「最先端のVFXと、高度なワイヤーアクションにより圧倒的なスケール感と、猛烈なスピード感を加え描いた全く新しい武侠アクション！」と宣伝されているから、本作を含む『七剣下天山』シリーズ3作のテイストはツイ・ハーク映画版とは全然違うようだ。

他方、梁羽生原作の『七剣下天山』にはTVドラマ版もある。それは、2007年にツイ・ハークの監督、脚本で全39話のTVドラマにされている（以下、ツイ・ハークのTV版という）のだが、その詳細な解説を読んでみると、ツイ・ハークのTVドラマ版は比較的原作に忠実なドラマに仕上がっているらしい。TVドラマ版全39話すべてを見るのは大変だが、後述のようにそれが日本のTVでも放映されることがあれば、必見！

■□■「七剣下天山」の時代は？登場人物は？キーワードは？■□■

『七剣下天山』の時代は、17世紀中頃。中国史は王朝の歴史だが、満州民族の清が北京を占領することによって漢民族の明を事実上滅ぼして新王朝を樹立したのは1644年。ツイ・ハーク映画版は1660年に設定されていたが、それは「反清復明」のスローガンを掲げて明王朝のために戦う勢力がいたからだ。そんな中、清朝政府は武術の研究と実践を禁じ、清王朝への反乱分子発生を防止するため「禁武令」を發布したが、天山山脈に囲まれた神秘の山・天山に立てこもった剣士たちは・・・？

施耐庵の『水滸伝』は、梁山泊に立てこもった剣士108名が大活躍するメチャ面白い武侠小説だ。それに比べれば『七剣下天山』の登場人物は少ないが、それでも登場人物は多種多様だし、1人1人は魅力的だ。その魅力的な1人1人のキャラはあなた自身で確認してもらいたい。ただ、『七剣下天山』のキーワードになっている“七剣”とは次のとおりだ。

- (1) 莫問剣：英知の象徴、(2) 遊龍剣：攻撃の象徴
- (3) 青干剣：防守の象徴、(4) 競星剣：犠牲の象徴
- (5) 日月剣：結束の象徴、(6) 舍神剣：剛直の象徴
- (7) 天瀑剣：紀律の象徴

この“七剣”の特徴と、“七剣”を操る剣士たちの名前とキャラを理解する必要があるが、ここでは“七剣”の名前だけを理解しておきたい。

■□■BS放送では華流ドラマが花盛り！私の好みは？■□■

中国語の勉強をたゆまず続けている私は、近時「華流ドラマ」にはまっているが、近時のBS11、BS12やサンテレビでは、それが花盛り。毎日どこかの局で何本も放映しているから、それらを合計すると毎日6、7本が放映されていることになる。ちなみに、2021年3月15日現在、放映されている華流ドラマは次のとおりだ。

BS 1 1 イレブン	4 : 0 0 『武則天—The Empress—』
	1 0 : 0 0 『ミーユエ 王朝を照らす月』
	1 5 : 2 9 『如懿伝』
BS 1 2 トウエルビ	5 : 0 0 『独孤伽羅～皇后の願い～』
	7 : 0 0 『永遠の桃花』
	1 7 : 0 0 『運命の桃華「残酷な真実」』
	1 8 : 0 0 『新・白蛇伝』
サンテレビ	1 5 : 0 0 『月に咲く花の如く』

私が過去、全何十話にも上るそれらのTVドラマを録画し、コマーシャルを飛ばしながらしっかり鑑賞して面白かったのは、『三国志～司馬懿 軍士連盟～』、『花と將軍』、『ミーユエ 王朝を照らす月』、等の「歴史モノ」、「戦争モノ」、「武俠モノ」だ。それに対して、『璣珞～紫禁城に燃ゆる逆襲の王妃～』、『月に咲く花の如く』、『永遠の桃花』、『新・白蛇伝』等はあまり面白くなかった。それは、それらの「恋愛モノ」、「宮廷モノ」、「SFモノ」、そして「ワイヤーアクションモノ」が、私には絵空事(＝ファンタジー)に見えるためだ。しかして、最先端のVFXと高度なワイヤーアクションを多用した本作の出来は？

■□■原作小説をどこまでアレンジ？その当否は？■□■

華流ドラマでは、韓流ドラマと同じように美女がたくさん登場する。それはそれで嬉しいのだが、華流ドラマに時々登場する“白髪の美女”については好き嫌いが分かれるはずだ。他方、原作小説では“七剣”を操る7人の剣士たちは全員男だが、本作のチラシには剣を持った美女が2人写っている。しかも、その1人は白髪の美女だからアレレ…。

ちなみに、ツイ・ハーク映画版の評論でも、私は「女剣士はツイ・ハーク監督の創作・・・？」の小見出しで、『七剣下天山』を読んでいないが、聞くところによると原作には女剣士は登場しないとのこと。したがって武荘の村娘であった武元英が突然、七剣士の1人に変身し、さっそうとした女剣士ぶりを披露するのは、ツイ・ハーク監督の創作らしい・・・？」と書いたように、ツイ・ハーク映画版も原作小説をツイ・ハーク監督流に創作していたが、本作に登場する“白髪の美女”は藍志偉監督の創作？また、ツイ・ハーク監督映画版では、悪役の楚昭南が徹底した悪役ぶりを発揮していたが、本作で悪役を演じるのは誰？ひょっとして、あの“白髪の美女”が悪役を・・・？私はそんな妄想をたくましくしながら字幕なしの本作をiPadの小さい画面で鑑賞した。

残念ながら私の「汉语水平」ではセリフを十分理解することができなかった。そのため、ストーリー展開はわかっても微妙な会話はわからないから少しライラ・・・。しかし、ネット上にあった「Cinamarche 映画感想レビュー&考察サイト」を読んだことによって、そのストーリーや各登場人物のセリフも大体理解することができた。

ワイヤーアクションとはいえ本作のアクション度は相当のものだから、やはり本作は映画館の大スクリーンで楽しむのがベストだ。しかし、iPadでもそれなりに楽しむことができたことに感謝！

2021(令和3)年3月26日記